

Raychem 自己制御電気ヒーター「オートトレース」の(株)テクノカシワ

山下 興郎 株式会社テクノカシワ 代表取締役社長

要約 当社は、アメリカ Tyco Thermal Controls 社が製造する Raychem 自己制御電気ヒーターを中心に、国内外の電気ヒーターを各種取り扱い、凍結防止からプロセス保温までヒートマネージメントを通して、省エネ・CO₂削減に役立つ事を目指すエンジニアリング商社である。

1. はじめに

当社は Raychem 自己制御ヒーターを水道管の凍結防止用途としての取り扱いからスタートし、その後技術の蓄積を図り、石油化学、食品等厳しい温度制御が求められる分野の配管・タンクへのプロセス保温のプロジェクトを設計・施工を含めて数多く手掛けている。

最近では最大保持温度が 150 度℃である自己制御電気ヒーターにとどまらず、高温対応の MI ヒーター、シーズヒーターを取り扱うに至った。

現在製造現場でのプロセス保温の主流はスチーム・温水であり大量の化石燃料が使用されているが、環境問題や、不安定なエネルギーコストに対応するため電気エネルギーに着目する製造現場が増加している。

2. 当社の沿革

1947年：山下汽船（合併後商船三井に吸収）の創業者の子弟が、炭酸ガス消火器を船舶に販売することを主業務として柏商店（後に船用消防・防災エンジニアリングメーカー、カシワテックとなる）を設立。

1986年：陸上市場進出のため、Tyco Thermal Controls 社と自己制御電気ヒーターの代理店契約を締結。

1995年：陸上市場への業容拡大のためヒーター部門を分社・独立し株式会社テクノカシワを設立。

2002年：Tyco Thermal Controls 社の PyrotenaxMI ケーブルヒーターの取り扱いを開始し、最大保持温度摂氏 150 度以上の配管・タンクに対応。

2010年：摂氏マイナス 20 度の環境を持つ実験棟を茨城県板東市に開設。

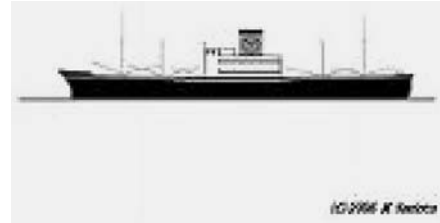


図 1 山下汽船船体

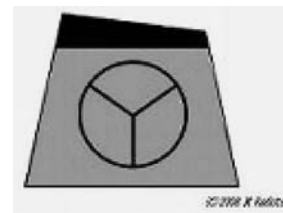


図 2 山下汽船ファンネルマーク

Tyco Thermal Controls 製品に船用防災エンジニアリングで培われた技術力を付加価値として加えることで業績を伸ばし、同社の代理店としてはアジアのトップに位置する。

前述の国内工業用・一般建築物用に加え、石油掘削リグ、巡視船、LNG 船等船舶・海洋構造物への実績が多いのは当社の歴史的背景からくるものである。

3. Raychem 自己制御電気ヒーター「オートトレース」のご紹介

自己制御電気ヒーターは米国 Raychem 社が世界に先駆けて 1972 年に商品化し、世界中で 30 万 km（地球 7 周半）以上使用されており、製品の性能・信頼性・安全性・耐久性の高さが認められている。